

令和 8 年度 第 1 回 学校評議員会

日 時：令和 8 年 7 月 17 日（金） 10 時 55 分～12 時 00 分

場 所：本校多目的教室

出席者：学校評議員 7 名 学校職員 9 名

1 開会

2 学校評議員委嘱

3 学校長挨拶

- ・文科省から指定されている SSH が先導的改革型Ⅱ期 3 年目。来年度以降、認定は引き続き受けるが、予算はある程度自分たちで準備する形で進めている。
- ・鳩祭 5,000 名超の来校。昨年度より 1,000 名増で、生徒たちも主体的に取り組んでいた。
- ・高校では、男子ハンド、弦楽、書道、新聞、ギタ・マン班が全国大会へ出場。
中学では、男女テニス、男女ハンド、水泳が北信越大会へ出場。
- ・課題探研究生徒、屋代駅のオリジナルメロディーを自分で作り、実現。
- ・今年度の高校入学者選抜、志願者が募集定員に満たなかった。理数科は、前期も後期も 1.5 倍が続いていたが、今年は理数科も定員に満たない状況。興味関心や理数的素養の力を高めるような活動がさらに必要になってくる。私立の無償化、路線バス屋代須坂線の廃止等が志願者減の原因として分析している。
- ・引き続き、地元中学生への魅力の発信に力を入れていく。

4 学校からの説明

（1）附属中学校の主な取り組み

- ・SSH24 年目を迎え、中学生も専門的な講義（統計グラフコンクールに向けた講座など）を聞き、探究活動の素地をつくっている。今後、生物分野・物理分野の講義も予定。
- ・自分の強みや学んだことを生かして、様々なコンクールや大会で受賞している。
- ・1 年生の宿泊学習では、望ましい学習集団の形成を目的にエンカウンターを昨年度から導入。生徒同士が切磋琢磨できている。
- ・駅前花壇の整備、姨捨棚田、千曲未来フェスタなど、千曲市のさまざまな活動に参加。卒業生にとって千曲市が「第二の故郷」となるような学びの機会になっている。
- ・制服検討委員会にて、夏季のポロシャツ着用を 7 月から導入。多様なニーズに対応した制服の検討を継続。
- ・班活動の成績も含め、「文武両道・質実剛健」の校是を中学生も受け継いでいる。
- ・遠方から通学する生徒の時間管理など、自己管理能力の育成が必要。手帳も活用している。
- ・休みがちな生徒への支援として、支援会議を早期に開催し、外部機関との連携を図る。

- ・班活動の加入率は、部活動地域移行もあり、年々低下傾向にある。

(2) キャリア教育について

- ・ほぼ全員が進学を希望しており、集団形成がうまくできている。
共通テスト出願率 96.8%。うち 6 教科 8 科目のフルコース受験が 88.8%。
- ・国公立合格 124 名、私立 36 名の計 160 名。理数科では 40 人中 30 人が国公立に合格するなど健闘。
- ・推薦合格：国立大学 22 名、公立 6 名（計 28 名）、私立 10 名（指定校推薦含む）。
一般受験を中心に目指す方針。
- ・東京大学・京都大学 0 名（過去 5 名の実績あり）、東北大学は 2 年連続で 10 名超。
- ・進路希望調査では国公立志望が 207 人。最後まで志望を落とさせない指導が課題。
- ・高 1 のスタディーサポートの結果より、基礎学力の定着がもう少し必要な生徒も見られる。学校全体として基礎学力の丁寧な育成に取り組む必要がある。

(3) 生徒指導・生徒支援について

- ・本校の課題としてスマートフォン・SNS の適切な使用が挙げられる。個人間のやり取りは教員から見えない部分が多く、一定数のトラブルが報告されている。
- ・啓発による予防は行っているが、根本的な対策は難しい状況。
- ・高校生を対象とした交通違反（青切符）の報告は現在なし。事故も現時点でなし。
- ・千曲市内で自転車の盗難事案が発生しているので、引き続き注意を呼び掛ける。
- ・乗車マナーについて、地域住民からの通報を受け、注意喚起を実施。
- ・いじめ防止に関するアンケートを夏休み前に実施。
- ・生徒だけでは解決できない案件も報告されており、適切な距離感を保って行動することや、判断力の面で課題のある行動も見られる。
- ・個別配慮（定期テストの別室受験、欠席日数への配慮、別室・オンライン対応など）を実施。スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）とも連携して対応している。

(4) 生徒会について

- ・第 70 回鳩祭は来場者 5,000 名超と盛況。
- ・コロナ禍では 2 会場に分散していたものを、生徒の希望で 1 会場に集約する形式を採用。感染対策等も講じながら実施。
- ・中 1・高 1 では、縁日企画を実施。
- ・音響設備の充実を図り、外部業者に頼らない形で対応。
- ・協賛を募り、多くの支援をいただいた。
- ・今後もより良い文化発表の場となるよう、中高連携を図りながら運営していく。
- ・今後は、9 月に生徒会選挙、11 月に新体制発足予定。

(5) SSH について

- ・SSH 指定 24 年目、これまで途切れることなく連続指定を受けている。先導的改革型Ⅱ期として予算

措置があったが、来年度は予算措置がない。認定枠に移行。

- ・課題研究に関わる取り組みとして、教育課程の研究開発、成果普及のためのネットワークの形成、国際性の育成などに注力。
- ・これまでも理数科のみならず普通科においても理数教育の充実を牽引してきた。
- ・概念図で示すと、これまでは指定の「頂点」を目指す段階だったが、今後は自走化モデル校としての「認定枠」へ移行する見込み。認定枠移行後は、「認定枠向け加速支援」事業の対象となることから、令和9年度からの新規指定取得に向けて現在準備中。
- ・各事業についても精査して、継続するものを検討している。必要経費の一部について、同窓会から支援いただき、家庭・保護者に負担をお願いする方向で検討中。自走化に向けた体制整備を進めている。

(6) 学校評価について

- ・教育目標（長期目標、令和8年度）に関して評価の観点を設定し、今後評価を行う。

5 質疑及びご提言

- ・授業参観について、中学校は活発な雰囲気良く取り組んでいた。高校は生徒が緊張感を持ち、先生方も緻密な準備をしている様子が見られた。生徒を信頼し、主体性を尊重している点が良かった。
- ・生徒支援について、生徒自身にとっての最善の選択ができるよう支えてほしい。
- ・自転車のマナーについて、自分の命を守ることは最優先としつつ、自分自身が加害者になる可能性もあることを伝えてほしい。
→夏休み前に全校に周知する。
- ・いじめ防止について、何がいじめになりうるのか、意思疎通のすれ違いやコミュニケーションの取り方も含め、相手側からの視点で生徒への情報提供ができるとよいのではないか。
→生徒個々の状況についても、職員間の情報共有を図っていきたい。
- ・大学のようなグループ活動やオンライン学習が、どの程度取り入れられているか。
- ・生徒はネットやAIツールなどをどの程度活用して学習しているのか、また教員側でそれをチェックできる体制はあるか。
→辞書の使用について、紙の使用はわずかで、タブレットやAIに聞く生徒が多い。AIの使い方を上手に指導しつつ、基礎学力をしっかりとつけさせるということが今後の課題である。
- ・基礎学力低下について、個々の生徒へのサポートか、クラス全体へのサポートか、どちらの方針か。
→高校2年になると学力がある程度伸びていくが、生徒自身にその実感がない。全体としては粘り強く取り組んでいるので、引き続き粘らせたい。
- ・班活動の加入率が下がってきているが、その理由は何か。
- ・SSHについて、来年度から予算措置がなくなることだが、活動内容をもっとホームページで発信してほしい。英語で課題研究の内容を発表している取組（サイエンスフェア）が、世間にあまり知られていないのではないか。
→外部評価、生徒の満足度ともに高い英語での発表について、広く周知していきたい。加速支援認定についても重要な観点であり、様々な手段を駆使して今後成果を広く伝えていく。

- ・基礎学力が全体的に低下している点に関して、引き続き頑張ってもらいたい。
- ・高校3年生については、第一志望を最後まで継続して頑張ってもらいたい。
- ・スマホやネットについて、自分で律しコントロールする力、AIとの付き合い方など、生徒自身がいろいろ実践しながら身に付けていってほしい。
- ・高校入試の志願倍率が1倍を切ったことについて、進学校である屋代高校で1倍を切ったのは衝撃的。高校独自で対応できることはあるか、今後の対応策を考えているか。
→長野市北部、松代方面からの志願状況や、私立高校の授業料無償化の影響が大きいと分析。意欲と学力のある生徒は変わらず入学してきている。学校の活動を知ってもらうため、中学校ごとの説明会の回数を増やしている。5月の公開授業の参加人数は倍増、7月の体験入学も例年並み。入試制度についても、前期選抜における理数科の定員割合を7割から9割に変更するなど、志望がはっきりしている生徒へのチャンスを広げた。
- ・通学途中に、挨拶を返してくれる生徒が少ない気がする。何か対応を考えてほしい。
- ・子どもたちが意欲的に取り組んでおり、先生方も高度な授業を行っていた。
- ・屋代高校の必要性・人気は昔から変わっておらず、魅力も変わっていないと感じている。
- ・私立高校を第一志望として考える生徒が増えてきている。併願という選択肢が取りにくくなっている中で、一発勝負となる際に屋代高校が選ばれにくくなっているという分析もできるのではないかな。今ある学校の魅力を大切にしていってほしい。
- ・高度な特別支援教育の知識が今後さらに必要になってくる。
- ・授業終盤でもじっくりと考え、落ち着いて学ぶ姿勢・考える姿勢が見られた。
- ・倍率が下がっている中で、何かできることはないか。子どもの声が子どもに届くような取組（在校生や卒業生の子どもが体験を語りかける機会など）を大切にしてほしい。
→生徒自身がスライド資料を作成し、近隣の中学生向けに発表を行う機会もある。今後引き続き、そういう場面を増やしていきたい。
- ・理数科について知ってもらうことも引き続き重要であり、今後も情報発信を続けてほしい。理数科の進路や活躍のエピソードを聞けるとよい。子どもの声が子どもに届く工夫を。
- ・ジャージを着用して授業を受けている生徒が多く見られた。
- ・ホームページが素敵に作られており良い。より多くの受験生に来てもらえるようPRしてほしい。
- ・屋代駅の発着メロディ作成など、地域貢献の取り組みが見られてよい。
- ・受験に向かう中でも体力づくりや、友人・仲間と支え合う関係性を大切にしてほしい。

6 諸連絡

- ・次回予定：11月

7 閉会